

平成26年11月28日

豊田市議会議長 都築繁雄 様

合併10周年検証特別委員会  
委員長 稲垣幸保



### 委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

#### 記

- 1 派遣期間 平成26年10月21日(火)～23日(木)
- 2 派遣先 21日(火)…静岡県浜松市  
及び内容 /中山間地域振興計画について  
22日(水)…新潟県上越市  
/中山間地域振興基本条例と条例制定後のまちづくりについて  
23日(木)…群馬県前橋市  
/合併の効果の検証について(合併検証報告書)
- 3 派遣委員 委員長 稲垣 幸保  
副委員長 板垣 清志  
委員 松井 正衛 佐藤 恵子 太田 博康  
牛田 朝見 吉野 博子 桜井 秀樹  
根本 美春 山口 光岳 伊井 房夫
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 担当長：藤野 晃浩、主査：柴田 賢人

## 視察報告書【1】

委員会名	合併10周年検証特別委員会	委員名	稲垣幸保
視察日時	平成26年10月21日（火）午前10時00分～午前11時30分		
視察先	静岡県浜松市		
視察内容	浜松市中山間地域振興計画について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「他自治体の事例調査」の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し、県内一の広大な面積を有すると同時に、過疎化の進む中山間地域を多く抱える都市となった。</p> <p>この10年間、第7次総合計画の重点テーマの一つである「都市と農山村の共生」のもと、市は様々な施策に取り組んできたが、人口減少などの問題は進んでいる。これらの問題解決に向けて、当委員会は他自治体の事例調査を行い、中山間地振興のための条例制定の設置状況を調査・研究している。</p>		
視察概要	<p>浜松市は、合併により面積1,556km<sup>2</sup>・人口810万人の政令指定都市となったが、このうち1,022km<sup>2</sup>(66.5%)、人口3万6千人(4.4%)を中山間地域としている。この中山間地域では、合併後も過疎化、高齢化は進行しており、維持が困難な集落も増えており、本市の中山間地域と同様の課題を抱えている。この実態から、中山間地域の厳しい状況を克服し、中山間地域の住民が「いきいきと住み続けられる」中山間地域を目指す取組のため「浜松市中山間地域振興計画」を策定し、振興施策に取り組んだ。</p> <p>この計画の成果や計画の進捗状況・今後の課題対応について調査した。</p>		
評価とその理由	<p>「浜松市中山間地域振興計画」は、平成22年度～26年度までの5年間計画で、毎年度50億円～55億円の事業費により236事業(進捗率87.5%)であるが、中山間地域の人口減少は止まらず、また高齢者や高齢者単身世帯比率の高い集落は128集落に増加した。この状況から、平成27年度～5年間の第2次振興計画の策定を進めていること。</p>		
本市議会に反映できること	<p>「浜松市中山間地域振興計画」は、通称「山里いきいきプラン」として4つの重点方針のもと、13の施策に基づき236事業に取り組んだが、中山間地域の人口減少は止まらず、また高齢者や高齢者単身世帯比率の高い集落は128集落に増加した。この状況から、平成27年度から5年間の第2次振興計画を策定し、中山間地域の振興施策を継続することは、本市も参考としてほしい。</p>		
その他(意見・課題など)	<p>浜松市の中山間地域の現状は、本市と同様であり、取り組んでいる個々の事業施策の内容も差異はないので、相互の情報交換をしながら課題解決に結びつく対策を進める必要を強く感じた。</p>		

## 視察報告書【2】

委員会名	合併10周年検証特別委員会	委員名	稲垣幸保
視察日時	平成26年10月22日（水）午前9時30分～午前11時00分		
視察先	新潟県上越市		
視察内容	上越市中山間地域振興基本条例と条例制定後のまちづくりについて		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「他自治体の事例調査、中山間地振興のための条例制定の設置状況」の調査・研究の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し、県内一の広大な面積を有すると同時に、過疎化の進む中山間地域を多く抱える都市となった。</p> <p>この10年間、第7次総合計画の重点テーマの一つである「都市と農山村の共生」のもと、市は様々な施策に取り組んできたが、人口減少などの問題は進んでいる。これらの問題解決に向けて、当委員会は他自治体の事例調査を行い、中山間地振興のための条例制定の設置状況を調査・研究している。</p>		
視察概要	<p>上越市は、平成23年6月市議会定例会で、議員提案による政策条例として「上越市中山間地域振興基本条例」を全会一致で可決し制定した。今回の視察では、条例制定の効果や条例制定後のまつづくりの取組を主に調査した。</p>		
評価とその理由	<p>上越市議会は、平成19年度から中山間地域対策特別部会や中山間地域対策特別委員会を設置し、「上越市中山間地域振興基本条例」制定の取組みを進めた。特に、高齢化が進んでいる100集落を対象に実態調査した結果、後継者が帰る可能性のある世帯は、35世帯から19世帯に減少したこと。また、このまま集落に住み続けたい世帯は、257世帯から320世帯に増加したこと。この特徴を重視し、中山間地域に振興策を総合的・計画的に進める必要があるとして条例制定が具体化したこと。</p> <p>本市においても中山間地域の実態は、上越市と同様であり、中山間地域の振興策を総合的・計画的に継続して推進するための手立てとして条例を制定し、事業施策着実に推進し成果をあげていることは、評価できる。</p>		
本市議会に反映できること	<p>本市においても中山間地域の実態は、上越市と同様であり、中山間地域の振興策を総合的・計画的に継続して推進するための手立てとして条例の制定化は検討すべきと考える。</p>		
その他 (意見・課題など)	<p>①合併の良し悪しの評価は大変難しいが、条例制定により、市はよく取り組んだと評価している（宮崎市議会議員）。</p> <p>②「集落づくり推進員」の配置は参考となった。</p> <p>③上越市は、積雪の多い集落（4m～8m）や高齢者世帯への除雪支援として「地域支え合い体制」を構築したこと。</p> <p>④本市には、「おいでん・さんそんセンター」があるが、地域外の人材を地域の担い手として活用する「地域おこし協力隊」の受入れも検討したい。</p> <p>⑤条例に、空き家対策も必要ではないか。</p> <p>⑥条例の理念としている「中山間地域の公益的機能やその恩恵を受けていること等」が、本市では全市民の共通認識として理解されるか。</p>		

### 視察報告書【3】

委員会名	合併10周年検証特別委員会	委員名	稲垣幸保
視察日時	平成26年10月23日（木）午前10時00分～午前11時30分		
視 察 先	群馬県前橋市		
視察内容	合併の効果の検証について（前橋市合併検証報告書）		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「他自治体の事例調査」の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し、県内一の広大な面積を有すると同時に、過疎化の進む中山間地域を多く抱える都市となった。</p> <p>この10年間、第7次総合計画の重点テーマの一つである「都市と農山村の共生」のもと、市は様々な施策に取り組んできたが、人口減少などの問題は進んでいる。これらの問題解決に向けて、当委員会では他自治体の事例調査を行い、中山間地振興のための条例制定の設置状況を調査・研究している。</p>		
視察概要	<p>前橋市は、平成16年に12月に3町村、平成17年5月に1村と、2度の合併により、面積311km<sup>2</sup>・人口34万人の市となった。</p> <p>合併後10年を経過したことから、合併の効果や新市建設計画の進捗状況などにより合併を検証し報告書をまとめられており、その内容等について調査した。</p>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前橋市は合併効果の検証として、合併地区で「市民意向調査」を実施したこと。</li> <li>・合併地区の人口動態はほぼ横ばいであること。</li> <li>・合併を検証するには、「新市の一体感」の把握が大事だと思うが、「市民意向調査」では、市民の評価は低いと感じたが、合併各地区とも自立の意識が強い現れと理解した。</li> </ul>		
本市議会に反映できること	<p>合併の検証を基に地域審議会や地域の様々な意見の聴取や市民の参加により、市域の均衡ある発展と市域一体感の醸成に向けた着実な事業推進を図る必要や市民と行政の協働のまちづくりを進めることにより、合併は良かったと実感していただけるよう、今後の施策展開が必要だと、まとめているが、本市においても同様の方針で合併後のまちづくりを進めてほしい。</p>		
その他（意見・課題など）	<p>合併地区では、もともと自立という意識が強いのか、市民意向調査をみて、各施策で「あまり評価しない」、「評価しない」といった数値が高いことが気になった。</p>		